幼児の有つ驚異的な能力

言葉の学習では、3歳から4歳にかけての時期を“成熟期”と呼んでゐます。一歳半頃までは「ウンマ」とか「マンマ」とか片言しか言へなかったものが、それから二年後には「約二千ほどの言葉を理解し、それを正しい語法に従って使ふ」やうになります。

どんなに教育熱心な親でも、二千もの言葉を教へてやれる親はまづゐないでせう。幼児は周囲で語られてゐる言葉を耳にしてゐるうちに、ひとりでこれを理解し覚えて行くのであって、決して幼児が「言葉を覚えよう」と意志し、努力して覚えるのではありません。

特に驚くべき事には、動詞・形容詞などの活用を正しく使ひ分け、テニヲハも立派に使ひ分けるやうになる事です。これも決して親から教へられたものではありません。誰からも全く教へられずに、「3歳児は、未然形を使ふべき所では必ず未然形を使ひ、連用形を使ふべき所では必ず連用形を使ふことが出来るやうになる」のです。

このやりな幼児の有つ、正に驚具に値ひする能力を、教育者たちは見落してゐるのです。大人だったら、外国人によく見られるやうに「私、学校、行くません」といふやうに、何年間も掛けて日本語を学習したのにも拘らず、テニヲハも使へず、活用も正しく使ひ分けることが出来な

いのが普通です。

また、私など中学校以来学校英語を11年間も学習しましたが、全く実際の用に立ちません。幼児だったら、一年も経たぬうちに英米人と全く同じやうな英語を話し聴く能力を身に着けるでせう。グレン・ドーマン博士は、この幼児の能力を「どんなに偉大なノーベル賞学者だとしても太刀打ち出来ない」と述べてゐますが、私も同感です。